

パネルディスカッション③：田宮氏

「高知県グローバル教育シンポジウム」 パネルディスカッション

テーマ 「国際的な視点をもって地域や国際社会で活躍できる人材とは
～生涯学び続ける力を育む国際バカロレア～」

・パネラー

長谷川壽一氏（東京大学大学院総合文化研究科教授）

田宮 直彦氏（株式会社日立製作所人財統括本部人事勤労本部長）

松木 秀彰氏（文部科学省大臣官房国際課国際協力企画室長）

石筒 覚氏（高知大学地域協働学部准教授）

長嶺沙綾子氏（IBDP 卒業生・サンディスク株式会社勤務）

・コーディネーター

坪谷ニューエル郁子氏（国際バカロレア機構アジア太平洋地区委員）

（司会）

では、パネルディスカッションの本題に入らせていただきます。

さらに、多方面から国際バカロレアやグローバルな人材育成について議論を深めていただきたいと思います。

ここからの進行は、コーディネーターの坪谷様にお願いいたします。よろしく申し上げます。

（コーディネーター）

かしこまりました。これからコーディネーターを務めさせていただきます坪谷でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

まず最初に、「企業が求めるグローバル人材とはどのようなものか」。これを田宮さんにお話いただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

（田宮直彦氏）

日立製作所の田宮でございます。企業の立場から、今、求めている人材像について少しお話をさせていただきたいと思います。

最初にお話しておきたいのは、我々のような製作所、伝統的な日本企業においても、今急速なグローバル化に直面をしているということでございます。

例えば、売上高も、3年ほど前の2012年の全体の売上が10兆円ぐらいありますが、そのうち海外の比率は42%だったんですね。それが今年は50%になりますし、従業員も今35万人ほどいますけれども、その約42%が海外。日立のグループ会社の数に至っては、今、約1,000社がございまして、その内

の700社が海外ということをございまして、昔のグローバル化というのは、一部の国際部門の担当がやるようなグローバル化だったわけですが、今日に至っては、全ての職種、部門の人間がグローバル化に立ち向かっているということでもあります。そういう中で、私どもでさえそういう状況なので、各企業がグローバル化に伴う人事戦略として、国籍に関わらず優秀な人材を採用・活用するという動きが今非常に強まっております、日本の国内の外国人留学生を採用するというところもあるでしょうし、海外に行って、海外の大学卒を採用するというような動きも激しくなっております。

ちなみに、私も先週アメリカのボストンに行きまして、採用活動をやってきたんですけども、ボストンのキャリアフォーラムという、日本企業が出る就職セミナーとしては最も大きなイベントがありまして、基本的に日米の日本語と英語のバイリンガルな日本人の学生さん、もしくは、海外の学生で日本語を多少なりとも学んでいる学生さん、5,000名ぐらいが世界中から集まるんですけども、そこに来ている企業は196社であります。10年ぐらい前は70、80社だったと思うんですけども、ここ数年はずっと200社近くの企業が採用しているということをございまして、そういう意味では、留学が就職の不利になるんじゃないかという都市伝説的な話も聞くんですけども、全くそのようなことはなくて、日本企業はアメリカに行ってまで、そういう留学生のグローバルに戦える人材を求めているということでもあります。

ここに出してあるのが(資料p1)、経団連の方で、「日本の人材がグローバルに戦えるために必要な資質、知識、能力とは何なのか」ということアンケートのございんですけども、英語をはじめとした外国語でコミュニケーションができるというのももちろんなんですけれども、海外とその社会、文化、価値観の差に興味、関心を持って柔軟に対応する姿勢というのを一番求めておりまして、またこれまでのやり方、既成観念にとらわれないでチャレンジするような力、そういったものを求めているということでもあります。

私ども日立製作所でも同様にそういった人材を求めておりまして、これは(資料p2)実際に大学生向けの採用のホームページに我々が載せている、求める人材像ということになります。少なくとも大学卒については、全員が我々グローバル要員だというふうに考えておりまして、「ボーダレスに臆せず挑むことができる意志と覚悟のある人財を求めています」ということで、人材像として以下4点をグローバル人材としては必要だというふうに考えております。

One by oneで細かく説明するのは省きますけれども、一番目の「柔軟な頭で物事の全体像を捉える人財」、「思い込みで視野を狭くしないこと」というのを一番重要視しておりまして、例えば、最近はインターネット社会なので、学生さんも余り新聞を読んだり、本を読んだりというのをしなくなっているというふうによく聞きます。高知の学生さんは、高知新聞はちゃんと読んでらっしゃ

パネルディスカッション③：田宮氏

るのかも分かりませんが、私の娘が今年就職しましたが、全く新聞を読まずに「ネットでニュースを見るからいい」と言い張るわけですが、これまでのように答えがあって、とにかくその答えを早く正確に出すという能力を今、企業は求めているわけではなくて、ありとあらゆる角度からいろんな情報を集めてきて、それを自分で分析して、課題を発見して、それに向けて仮説を立てて、その対応策を考えると。人に言わせれば情報編集力というような、そういう能力が必要になっておりまして、そういう観点で考えると、国際バカロレアの10の人材像というのは、非常に企業が求める人材にフィットしていて、我々がバカロレアの教育に期待をするところであります。

ぜひ、高知県もバカロレアの学校の設立に向けて頑張っていたきたいなというふうに思います。以上でございます。

(コーディネーター)

ありがとうございました。